

様式第6号 (会派用)

政務活動実施報告書

令和4年4月8日

村上市議会議長 様

会派名 鷲ヶ巣会

代表者氏名 大滝 国吉



当会は、下記のとおり政務活動を終了しましたので報告します。

	経理責任者氏名	鈴木 いせ子
用 務 名	ジビエ加工処理施設の先進地視察	
実 施 日 時	令和 3年12月21日 (火) 午前9時00分～午後4時30分	
用 務 先	上越市柿崎区「柿崎プーシェリー」	
参 加 議 員 名	大滝国吉、鈴木いせ子、河村幸雄、菅井晋一	
全体参加者数	4 名	
概要及び所見	※記載量が不足する場合は別業に記載すること。 (別紙参照)	
備 考		



別紙

【概要及び所見】

ジビエ加工処理施設の先進地視察

昨年は村上市も少雪のため海岸線には多くのイノシシの被害が発生しました。そのイノシシが山を越えて、朝日地区の国道7号沿線の猿沢地区・塩野町地区でも例年になくイノシシ被害が発生し、令和3年度は市内全体で142頭ものイノシシが捕獲されました。

捕獲後の処理に苦慮していると相談されていた時に、イノシシ肉を地域資源にと加工処理施設を整備し、利活用している上越市柿崎区にある野生鳥獣肉処理加工施設「柿崎ブーシェリー」をインターネットで知り、視察を依頼しました。

柿崎ブーシェリーは、2017年12月に県内でもイノシシが多い上越市で「雪国ジビエ」としてブランド化し、里山で増加するイノシシの利活用を進めたいと起業したものです。ハンターがジビエを自家消費せず、販売するには食品衛生法に基づき許可された施設での処理が必須となることから、県の補助など2分の1を受け、施設（総工費約2千万円）を設置し、鮮度や風味を保つ急速冷凍庫や熟成庫、肉の洗浄などに使う電解水生成機などを備えたとのことでした。解体処理するのは森本さん一人で、本業もあるため解体できる個体は多くても年間60頭ほどで、需要があっても販路を増やすには限界があるとのことでした。また、捕獲したイノシシがすべて使えるわけではなく、銃で捕獲したものは頭か首を仕留めたものだけで、胴体を射止めたものは内臓が損傷している可能性があり商品としては使えないことや捕獲時期も脂がのる10月から3月までに捕獲したメスだけを取り扱っていることなどから、通年で稼働することが難しい施設であると感じました。このような課題を知ることができ、市の特産品として事業を展開するなど市のバックアップの必要性も感じました。これから益々イノシシの被害は拡大されると思われますので、研修したことをいかし、本市の鳥獣害対策を考えていきます。